

## もの言う牧師のエッセー 第342話

## 「視覚障害のお笑い芸人」

3月6日、東京都港区のフジテレビにて。一人芸日本一を決める「R-1ぐらんぷり2018」決勝の舞台に、視覚障害をもつお笑い芸人、濱田祐太郎さんが白杖を手に上がった。一瞬静かになった会場。「あっ、拍手なしですか」。その一瞬の間を逃さずツッコミを入れると「びっくりした。俺、客席見えへんから、お客さんゼロ人かとおもた」とたたみかけ会場は大爆笑、一気に空気を変えた。濱田さんは見事に優勝、賞金500万円を獲得、3795人の頂点に立った。

芸歴5年目の彼は先天性の緑内障で左目は見えず、右目も光を感じる程度。盲学校でしんきゅう師の資格を取っても夢は変わらず、働いて学費のため、芸人養成所に入学し、人気芸人が出る大阪の劇場メンバーとなった努力家だ。「吉本に入って、目どころか自分の将来も見えなくなった」などと自らの障害を笑いに変える“バリアフリー漫談”は、日常生活で困ったことや健常者とのギャップをユーモアと自虐ネタを織り交ぜて披露するが「僕自身は身の回りに起こったことをしゃべっているだけ」と障害ゆえのハンディキャップも「舞台上では特にない」とケロツとしてる。

「視覚障害者としてではなく、漫談家として優勝できたことがうれしい。舞台上立ってお客さんの前でしゃべることを、ずっと続けていきたい。」と挑戦的な彼を見て、十字架にかかる間近のイエスの言葉、

**「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」**

**ヨハネの福音書9章39節、**

を思い出し身震いした。感謝を全くしない人、自分の不幸を嘆いてばかりいる人、何かのせいにして何も努力しない人など、“盲目な人”が何と多いことか。しかし望みはある。暗闇を照らすキリストの光に。濱田さんのような天才になる必要はない。イエスを信じることによって誰でも目が開かれ、舞台上に立てる。

2018-6-29

